

第5回高山駅周辺まちづくり協議会議事録要旨

日時：平成19年2月22日 13:30～

場所：高山市役所 中会議室

出席委員 13名

《開会挨拶》

《会長あいさつ》

《議事》 報告事項

1) 平成18年度事業内容

- ポッポ公園完成
- JRアンダーパス工事について
- 駅舎・広場について
- 建物移転状況について

事務局より説明

《質疑等》

会長： 報告事項についての質問はないか。

会長： アンダーパスの完成はいつか。

事務局： 平成21年春です。

会長： 質問が無いようなので、次の協議事項に移ります。

駅舎・広場について

部会長： 公共空間検討部会で駅舎・自由通路について話し合いをしてきた。その結果を今日説明する。

駅前広場・駅舎等を考えるには、原単位が必要になる。駅前広場等においては、路線バス、タクシー、各宿泊施設の送迎バス、一般車、高校生を中心とした駐輪場の問題など、様々な問題がある。それを今後新しい駅前広場、駅舎にしていくときにどれくらいの原単位が必要なのかというのを検討することから始めた。

現在の状況は、路線バス等8台、タクシー15台、送迎バス3台、一般車5台、駐車場が駅前第1・2合わせて350台分あるというのが現状です。

事務局から3つくらいの課題があるというのに付け加えて、今後の駅の利用者数を事務局のほうから回答を頂いた結果によると、今後の観光客数は今の状態で推移していくであろうと思われる。

現在高山線が富山に向かって不通となっているが、平成19年度中には開通する。だいぶ先の話になるが、東京・富山間が北陸新幹線で結ばれる。これは平成26年ということであるが、このようになると、東京から富山経由で高山に入ることが予想される。

このようなことを考えると、現在のJR利用者は減少傾向となっているが、今後は横ばいとなるかあるいは増加するという想定で話をすすめた。

バスに関しては、現在濃飛バスが業務を行っている。今の状況は最低限確保したいという状況である。駅西広場にもバス停が欲しいという状況となっている。

またイベント時のシャトルバスや、今後も高速バスが考えられるので、そのようなものも踏まえていくと、現在の8台から駅東・西合わせて10台くらいは必要であろうと思う。

タクシーに関しては現在15台だが、駅西東合わせて19台必要であると、実際の現場の方から聞いて4台増とした。

送迎バスについては、現在駅前通りに3台むりやり停めている状況となっている。これについては、事務局で駅東・西側の宿泊施設に対しアンケートをとり、どれくらい駅東・西側に送迎バススペースが必要かを判断するために調査を行った結果東・西合わせて8台となった。

一般車については、現状で、特異日などで一般車がどれくらい停まっているかなどを調べた結果、13台くらいとなった。

駐車場については、一般車が13台と少ないため、現状維持で350台必要ではないかと判断した。

現在、公衆トイレ1箇所、観光案内所1箇所、交番1箇所、駐輪場が202台という状況です。広場が駅東・西となるのでトイレは2箇所必要となる。観光案内所は、東・西と分散すると機能が悪くなる恐れがあるので1箇所集中型が良いのではないかとと思われる。案内所については後ほど意見を伺いたい。

交番については、警察と協議し1箇所。

駐輪場は現在202台あるが、高校生だけで240台必要だということなので、東と西に分散して400台必要であると、高校の校長先生などから意見を頂き判断した。

以上の意見をどのように配置していけば良いかということで、バス、タクシー、宿泊施設、学校関係、福祉関係の方に意見を聞きながら3案に絞った。

1案について： 広場入り口の説明。

タクシー乗り場位置説明。

送迎バスの位置説明。

短時間駐車場の説明。

○公共交通と民間の車が同じところで複合するので、危険性があるという意見があり不採用。

2案について： 広場入り口の説明。

交差点に入り口をもってきているので、信号で出入りができ、安全性では良い。

路線バス・シャトルバスの位置説明。

タクシー乗り場の位置説明。

送迎バスの位置説明。

○歩行空間が狭いという意見あり。

3案について： 入り口が3箇所ある。

送迎バススペースが外だと、道路交通上危険という意見があったので、送迎バスを中に入れたらどうかという案になっている。

歩行者通路にバスのおしりが突き出すことになるので問題となる。

道路から駅の歩行空間が、一般の駅前と違って非常に狭いのが問題となる。

第2案がこの中で良いのではないかとということで、若干修正したものが最後の案になる。

4案について： 自由通路を横にずらし、歩行者の線と直線的となるようにした。
路線バスやシャトルバスの空間を一つにまとめた。
一般車の迎えの車の位置説明。混んだら短時間駐車場で対応する。
駐輪場と交番の位置説明。駐輪場をどのような形にするかはまだ決まっていない。
タクシー乗り場の位置説明。
福祉車両については、ゼブラゾーンを設け両サイドや後ろからも乗り降りできるように1台分確保している。
送迎バスの位置説明。
結論として、入り口を2箇所とする。自由通路を横にスライドさせ自由通路から直線とする。一般車、小型車、大型車、送迎車を分けた。

部会長： 駅西については、だいたい形が決まっているので、真ん中に緑地帯を設け、周りにバスやタクシーなどの乗降スペースを確保した。

東側 歩行者動線の説明

トイレ・改札口・観光案内所の説明

路線バス乗り降り含め9台

タクシー乗り降り含め12台

送迎バス3台

一般車7台

短時間駐車場27台

駐輪場200台

東口については、以上のような配置となっている。

西側 自由通路から降りて真ん中が緑地帯。

タクシーと路線バススペースがある。

福祉車両のスペースを確保している。

一般駐車上の位置説明。(遠回りして入る)

駐輪場の位置説明。

路線バス1台

タクシー7台

送迎バス5台

一般車6台

以上基本計画の説明となります。

会長： 広場の必要な機能を想定し、現在東側一つの機能を東西へ分けた形となっている。4案出していただき、最終的に歩行者空間を広くとる案となっている。何か質問はないか。

- 会長： 交通機能の想定について、先ほどの台数の案で同時にとまれる台数なのか。
- 部会長： 同時に停まって最高停まれる台数となっている。
- 委員： 一般車のスペースについて、この台数では駅に迎えにきた車と駅に送りにきた車で混雑してしまうのではないかと。JRの1本の列車に迎えと送りの車が集中することになる。
- 部会長： スペースが限られているので、広く確保しづらい。待合で込んだ場合は、東西とも短時間無料駐車場を設けるつもりなのでそちらで対応する。（短時間駐車場の位置説明）
- 委員： 迎えにくる車がいっぱいになると、送りにきた車の降り場なくなる。
- 事務局： 送る車については、すぐ降ろして行ってもらえば良いと考えているので、あまり広く確保しなくても良いという考えである。混んだときは短時間無料駐車場に対応したい。
- 会長： 降ろすときのスペースをどれくらい取るかが問題となる。一般的にはこれくらいで少なくとも無いと思われる。
- 必ず混まない道路を造るには場所が広く必要だが、たまには渋滞しても良いという考えならこれくらいで良い。
- 委員： 現在送りにきた人が降ろす場所が、今回停車スペースとなっている。そこで降ろせないなら通路（タクシー）で降ろすことになってしまう。
- 部会長： 降ろすためのスペースを少しでも確保できれば良い。
- 事務局： 混雑したら、短時間無料駐車場に対応する。
- 委員： 駐輪場は一般の人がとめて買い物などすぐ状態か。
- 事務局： 現在の南側の駐輪場は有料である。新しい駐輪場を有料にするか無料にするかは決めない。
- 委員： 切符を買うのに、有料はおかしいと思う。短時間なら無料にすべきではないか。
- 事務局： 無料の駐輪場が必要ということか。
- 委員： 必要である。駐輪場という学生に対してという思いが強いが、一般に自転車を利用する人に対する無料駐輪場は必要と考える。
- 学生が駅に近いほうに自転車を置いて、一般利用者が遠くなることは不便である。
- 委員： 私も駐輪場を月に数回利用する。有料よりは無料が良い。駅前広場というと人が集う場所だと考える。現在、喫茶店などあるが、人が集える施設が必要と考える、何か考えはあるのか。
- 部会長： 後に平面図で説明する。
- 委員： 歩行者の動線の分断については、今の案では良くなっているのか。
- 事務局： スクリーンにて説明。現在は、広場の中に横断歩道がある（タクシーの動線を横切る形となっている）が、歩道スペースを確保したので、現在より良くなっている。
- 委員： 自由通路について、駅前広場をまたいで駅前通りの所で降りるということにはならないのか。
- 部会長： 広場の上に自由通路があると、雪への対策にもなるということで話はあったが、駅前通りの幅が狭く降り場が確保できないので無理と判断した。
- 会長： 用地買収を行い、土地を確保しないと駅前通りに降り場を確保するのは難しい。

（休憩）

- 会長： 公共空間検討部会での駅舎のイメージについて部会長より説明をお願いします。
- 部会長： イメージというのは、1000人に聞くと1000通りの意見が返ってくる。まとまりにくい。最初はイメージという大きいテーマだったが、もう少しやわらかい表現で、今後設計など

を行っていく上で、公共空間検討部会としてどのようなものを取り入れて欲しいかということを検討した。

自由通路、駅舎に関して**高山のイメージをワンポイントで表現する**ということが意見としてでた。高山駅を見たときに、何か高山らしいなといったことを感じてもらえるようなことを、ワンポイント的なものだけで表現できれば良いのではないかという意見があった。

ワンポイントの例としては、**屋台葺・町屋の雰囲気・格子・漆喰の壁**という意見があった。

大きいイメージとして、木の国飛騨高山ということで、木造の駅舎や自由通路を造るということではなく、**ホームを降りた人（観光客）が、高山に来たな**といった高山のイメージを、木を使って出せないかという意見があった。

駅周辺の景観ガイドラインが民有空間検討部会で策定された。これに基づいて、**周りの町並みと合うようなもの**を考えていくべきではないかという意見があった。

その他の機能については、**自由通路に展示スペースを設け、展示については有料としてその代金をエスカレータ等の管理費に充てる**といった意見もあった。

駅舎から北アルプスが見えるような展望台があったら良いのではないかという意見があった。

その他の機能として**融雪機能は屋根を含め必要**であるといった意見があった。

警察等からの意見として、**公共施設に死角があってはならない**ということがあった。

社協等からの意見として、**音声誘導設備を設置して欲しい**ということがあった。ユニバーサルデザイン的な設備としたい。

駅前広場について、四季が感じられる植栽とする。針葉樹だけではさみしい。

融雪機能については、歩道も車道も必要である。

憩い空間として、水辺やベンチを設置する。バラバラと設置するのではなく、できるだけ集約したものとする。

充実したサインやシンボルも必要。

公共交通のタクシー、バスからの意見として、**乗り場におけるシェルター（屋根）の充実して欲しい**といったことがあった。

先ほどの平面図で、**東側の歩行者スペースが広すぎる**のではないかといった色々な意見があった。平面と立体とではイメージが違うので、立体的なものを見て欲しい。

1案 屋台葺をワンポイントとした例。駅前観光客が写真を撮れるようにしたら良いのではないか。アルプスが見える展望台がある。憩い空間として水辺を設置する。

2案 漆喰の壁となっている。格子をワンポイントとしている。この会で、どのようなワンポイントが良いか意見をいただきたい。

3案 壁がレンガタイルとなっている。色も景観ガイドラインに沿ったものとなっている。これは周りの建物に合わせたイメージとなっている。

以上、公共空間検討部会で出た案をイメージするとどうなるかを表したものとなっている。

- 会長： イメージを、具現化するのは難しい。そこでトータルイメージではなく、ワンポイントイメージとして高山を表現する。
- 一つは屋台蔵、二つ目は漆喰・格子、三つ目はレンガをベースとした建物のイメージとなっている。このようなワンポイント・イメージで良いのか全体的な意見をいただきたい。
- その他、融雪の機能やユニバーサルデザイン、憩い空間などについての意見もお願いしたい。
- 京都駅のような斬新なイメージ、名古屋駅も少し違っている。これらを真似ることは無理だが、全く違った高山のイメージの方向性を出したい。
- 委員： 高山で何か造ろうとすると、過去ばかりみる。民芸調になってしまい偽物を将来残すだけとなり、無駄な公共投資となってしまう。
- 川東は今までどおり町並み保存地域として保全し、宮川から駅までは少し寂れてはいるが、商店街の地区となっている。バイパスから駅のゾーンは新しい都市のシンボルとなる地区になるので、これから未来に向かってどうやっていくかが大切である。
- 委員： 京都駅は、ものすごい利害関係の中で造られた駅である。それを解決したのがコンペである。いくつか出てきたものを皆で選んだという形にしたので皆が納得できた。
- 高山駅もコンペやプロポーザルを行えばもう少し案が出てくると思う。
- 私が来訪者の立場から見ると、通常は駅には人が溜まらないが、高山は電車の数が少ないので駅で待つ人がたくさんいる。電車を待つスペースが必要である。
- 自由通路はただ直線と覚えてしまうが、何かあると良い。
- 今の案は、日常の機能だが、災害時にどう駅舎等を使えるかを考えることも大切である。
- 会長： 高山は観光地なのに駅が貧弱なような気がする。非日常性（防災）に対する機能が駅にあっても良い。
- 委員： 例として、屋台蔵・格子・レンガとあったが、駅というものは町屋などとはちがう。駅を降りてあまりにも大きい屋台蔵や格子のイメージをもっていただくと具合が悪い。
- 古い町並みはすごく明るいというイメージはない。駅はさわやかな感じが良い。スケールが大きいものが良い。
- 会長： 新しい物をつくるにはそういったエネルギーが必要である。
- ユニバーサルデザインは意味が広い。高山駅では何を求めるのか。機能として、水辺や滞留する空間、防災機能を設けることは良いと思う。
- 広場や自由通路については意見はないか。
- 部会長： 自由通路について、デザインはまだ出ていない。単なる通路ではなく、お客さんが見るものがある（地場産）があると良い。
- 会長： 駅舎については、JRが建設を行うので市側でイメージ等を決めすぎてしまうとJRとの協議のときに困る。方向性を決めてJRに協力を求めたほうが良いかもしれない。
- 委員： 私の意見を誤解して欲しくないのですが、高山の中心部なのでふさわしいものを造って欲しいというのが一番である。近代的にしてワンポイントを入れることは良い。
- 会長： 未来に向けて中心部として新しいイメージをもつのも良いかもしれない。
- 委員： 融雪機能はどのようなものを考えているのか
- 事務局： まだ決まっていない。
- 委員： 広場だけでなく、前の道路までのものとして欲しい。
- 委員： 駅舎はJR、自由通路は市が行う。長野駅は都市計画道路として建てられた。自由通路は市

なので融通がきくが、JRのところは自由にならない。

会 長： 観光客を増やすためにどうしたら良いのかという思いは、市とJRは同じだと思う。

事務局： 高山市が今後生き延びていくには、観光が大事である。観光客がイメージするものは何かを考えよいいものを造りたい。

駅の周りには普通の雑居ビルしかない。駅にはできるだけ木を使い（ワンポイント的に）、高山らしさを表したい。機能は当然ユニバーサルデザインとしたい。

防災面の機能は今後考えていきたい。

会 長： ここで決めてしまうと今後話を進めるのが難しい。JRとの協議が大変になる。

この会で1つに決めることは無理だと思う。

部会長： ワンポイントを決めてもJRにはきいてもらえない可能性がある。

部会の中で、イメージについては3つくらいしか出てこなかった。意見が多く出るのはその他の機能についてだった。市民や利用客が何を求めているかを考えなければならない。

現在、高校生が駅にきてタイムリーで列車を待っている。ITサロンのような施設があれば良いのではないかな。

委 員： 駅がもっている失った機能（過去にはあったけれど無くなってしまった）が大切と考える。例えば自動発券機などの機械や、空間が壁だけにならないように人がお客に対応する姿勢が良い。まつりの森のように、どこへ行っても同じでは駄目だと思う。

最初は私も高山は木の国なので、高山のイメージは木だと思っていたが、そうではなく人柄や方言だと思う。機械ばかりではなく人と接することを大切にすべきだと思う。

会 長： 確かに高山らしさとは人間性かもしれない。ただし、JRに人を駅に貼り付けるよう依頼するのは困難なので、ボランティア的な対応をするしかない。

委 員： 機能の充実は必要だが、それだけでは寂しい。高山のイメージはハード面ソフト面多々ある。やわらかいイメージは必要だと思う。高山のイメージと機能の方向づけをしないと、市民やJRと協議していけない。

委 員： 西口の部分に多目的広場があるが、使い道は決まっているのか。

事務局： 検討中である。

委 員： 自由通路や広場に、市のサービス機能（案内所の他に）があったほうが良いのではないかな。

会 長： 今日追加で出た意見をまとめてもらう。JRと協議する前にもう一度協議会を開催しなければならないかもしれない。ただしこの会で案をしぼるのは難しい。

今後のスケジュールについて

景観計画について説明

事務局より説明

《閉会》